

GM条例等の執行状況に関する点検・検証の論点について

【「遺伝子組換え作物の栽培等による交雑等の防止に関する条例」について】

(論点1) 遺伝子組換え作物の交雑・混入による生産上及び流通上の混乱防止の必要性について

関連する道民意識調査の結果	意見交換会での意見												
<p>■ 遺伝子組換え作物等の安全性について</p> <p>▼ 不安に思う＋やや不安に思う</p> <table border="1" data-bbox="185 824 628 918"> <thead> <tr> <th>(H26)</th> <th>(H23)</th> <th>(H20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80.4%</td> <td>65.2%</td> <td>78.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ (H26-H23) 15.2%</p> <p>▼ 不安に思わない＋あまり不安に思わない</p> <table border="1" data-bbox="185 1059 628 1153"> <thead> <tr> <th>(H26)</th> <th>(H23)</th> <th>(H20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12.3%</td> <td>20.5%</td> <td>13.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ (H26-H23) △8.2%</p>	(H26)	(H23)	(H20)	80.4%	65.2%	78.2%	(H26)	(H23)	(H20)	12.3%	20.5%	13.8%	<p>■ 北海道でGM作物を作っていないのであれば証明書を出してほしいという要望があるなど、現状、GM作物は販売上マイナスである。</p> <p>■ 道の条例は、販売先に理解を得る上、非常に有効なものとなっている。</p> <p>■ 現状、北海道産＝ノンGMという認識が定着し、北海道ブランドは安全・安心なものとして扱われているが、そこにGMが入ってくると流通が混乱する懸念がある。</p> <p>■ 分別管理については、産地では施設や運搬体制が整っているが、末端の流通や加工段階で混入リスクの懸念がある。</p> <p>■ 有機農産物では、GM技術が認められておらず、また、オーストラリアでは有機圃場にGMが混ざって訴訟が起きているなど、GM作物の栽培には非常に敏感である。</p> <p>■ この条例の制定により、GM作物があたかも害があるかのように捉えられている面があり、今後も、この条例を継続していくと食品業界として風評被害のリスクを背負うこととなることから、この条例は廃止すべき。</p> <p>■ 安全・安心面で使えないが、クズ豆がなく規格が統一されており、かつ安価なことから加工原料として魅力的である。</p>
(H26)	(H23)	(H20)											
80.4%	65.2%	78.2%											
(H26)	(H23)	(H20)											
12.3%	20.5%	13.8%											
<p>■ 遺伝子組換え作物の栽培による自然や環境への影響について</p> <p>▼ 不安に思う＋やや不安に思う</p> <table border="1" data-bbox="185 1391 628 1485"> <thead> <tr> <th>(H26)</th> <th>(H23)</th> <th>(H20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>79.8%</td> <td>66.1%</td> <td>74.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ (H26-H23) 13.7%</p> <p>▼ 不安に思わない＋あまり不安に思わない</p> <table border="1" data-bbox="185 1626 628 1720"> <thead> <tr> <th>(H26)</th> <th>(H23)</th> <th>(H20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10.2%</td> <td>17.8%</td> <td>11.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ (H26-H23) △7.6%</p>	(H26)	(H23)	(H20)	79.8%	66.1%	74.6%	(H26)	(H23)	(H20)	10.2%	17.8%	11.2%	
(H26)	(H23)	(H20)											
79.8%	66.1%	74.6%											
(H26)	(H23)	(H20)											
10.2%	17.8%	11.2%											

■購入しようとした食品等に「遺伝子組換え」と表示されている場合の対応

▼購入しない

(H26)	(H23)	(H20)
50.9%	50.8%	50.8%

※(H26-H23) 0.1%

▼安ければ購入+気にせず購入

(H26)	(H23)	(H20)
14.0%	15.7%	12.6%

※(H26-H23) △1.7%

■生産者に負担の大きい除草作業を軽減するGM作物を作りたいと思っている生産者もいるかもしれないが、安全性等に不安があるので作っていない。

■除草作業が大変なのでGM大豆を飼料用として作りたい気持ちがある。販売価格は国際価格でも採算がとれる。

■GM作物を進めることは、海外とのコスト競争をすることとなり、科学的知見のみならず、経済的知見、文化的な部分、道民や国民が自立することも含め考えるとあまり進めるではない。

■国内でGM作物を生産しコストを下げても、価格では海外のスケールメリットに太刀打ちできない。さらに米国の生産者は輸出奨励金をもらっている。

■交雑と安全を別に考えることはできない。消費者は不安なものは買わない。

【「遺伝子組換え作物の栽培等による交雑等防止措置基準」について】

(論点2) 交雑防止措置基準の見直しを要する新たな知見や技術について

関連する道民意識調査の結果	意見交換会での意見
	<p>■ 交雑のリスクについては、現行の隔離距離でやってみて、交雑防止ができない場合は見直すことになるのではないか。</p> <p>■ 外来生物の侵入は、強風などによって虫が遠くまで運んでいることから、この条例の隔離距離だけでは安全とは言えない。</p>

【その他】

(論点3) 道民への情報提供やリスクコミュニケーションについて

関連する道民意識調査の結果	意見交換会での意見																		
<p>■ 遺伝子組換え作物等について、どのような情報を入手したいか (複数回答)</p> <table border="0"> <tr> <td>安全性に関すること</td> <td>79.0%</td> </tr> <tr> <td>自然環境や生物多様性に関すること</td> <td>51.4%</td> </tr> <tr> <td>表示に関すること</td> <td>46.0%</td> </tr> <tr> <td>流通や加工利用に関すること</td> <td>27.4%</td> </tr> </table> <p>■ それらの情報をどのような手段で入手したいか (複数回答)</p> <table border="0"> <tr> <td>パンフやチラシなど</td> <td>72.8%</td> </tr> <tr> <td>インターネット</td> <td>44.2%</td> </tr> <tr> <td>雑誌や研究年報</td> <td>27.8%</td> </tr> <tr> <td>農場や研究所の見学</td> <td>12.9%</td> </tr> <tr> <td>学習会や意見交換会</td> <td>11.1%</td> </tr> </table>	安全性に関すること	79.0%	自然環境や生物多様性に関すること	51.4%	表示に関すること	46.0%	流通や加工利用に関すること	27.4%	パンフやチラシなど	72.8%	インターネット	44.2%	雑誌や研究年報	27.8%	農場や研究所の見学	12.9%	学習会や意見交換会	11.1%	<p>■ GMの安全性や使用の有無を消費者に伝えるべきで、消費者に適正に判断してもらうことが必要。</p> <p>■ 食用油や醤油はほとんどがGM作物で製造しているにも関わらず、表示義務の対象外となっているが、このことは一般消費者に知られていない。</p> <p>■ 多くの人に正確な情報提供やリスクコミュニケーションを積極的に推進すべき。</p> <p>■ 国は企業の提出データだけで安全性を評価し認めており不安である。(国は、しっかりした客観的データの基に確認し、国民に正確な情報を説明すべき)</p>
安全性に関すること	79.0%																		
自然環境や生物多様性に関すること	51.4%																		
表示に関すること	46.0%																		
流通や加工利用に関すること	27.4%																		
パンフやチラシなど	72.8%																		
インターネット	44.2%																		
雑誌や研究年報	27.8%																		
農場や研究所の見学	12.9%																		
学習会や意見交換会	11.1%																		

(論点4) GM条例に関する新たな知見や技術について

関連する道民意識調査の結果	意見交換会での意見
	<p>■ 新しい植物育種技術 (NBT) が開発され、世界的に実用化が検討されているが、今後、その技術で開発された作物が北海道に入ってきた場合、このGM条例では対応できないことになるのではないかと懸念されている。</p>